

小豆新品種「十育 170 号」栽培試験（1 年目）

1. 目的

帯広市地域における小豆新品種「十育 170 号」の品種特性や栽培適性について、検証及び普及啓蒙を図る。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「十育 170 号」

(2) 面積および区制

畦幅 70cm×4 畦×18m、1 区面積 50 m²

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法
沖積土	壤土	スイートコーン	70cm×20cm	露地

(4) 施肥・防除

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						防除回数	
	施肥時期	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害
炭カル 60kg	基肥 5/20	豆用 2 号 100kg	4.5	21.0	10.0	4.5	3	3

4. 試験結果

(1) 生育概況

播種は 5 月 20 日に 1 株 3 粒蒔きで行った。5 月下旬の低温・乾燥により出芽期は 6 月 5 日と遅く、出芽は不揃いであった。6 月 18 日に補植を行った。6 月以降の少雨と 7 月中～下旬の高温・干ばつで降水量が極めて少なかったが、生育は概ね平年並であった。開花始は 7 月 27 日、成熟期が 9 月 18 日と順調に経過した。8 月以降、降水量が多かったことから 9 月 21 日の主茎長が 72.2cm と平年より長く、倒伏の発生もみられた。着莢数は平年並であった。

病害虫の発生は、7 月上旬からアブラムシの発生が多かった。菌核病、灰色かび病の発生は少なく、落葉病、茎疫病、萎凋病はみられなかった。

(2) 十育 170 号の収量性

10a 当たり子実重は 363kg と高かったが、極小粒や充実不良の痩せ粒など屑粒の割合が 12.7% と多く、製品収量は 317kg であった。百粒重は 15.4g とやや小さかったが、等級は 2 等であった。

参考：生育調査・収量調査等のデータ

① 生育及び作業ステージ

品種	播種月日	出芽期	開花始	開花期	成熟期	収穫月日
十育 170 号	5/20	6/5	7/27	7/29	9/18	9/27
参考：作況平年値 (きたろまん)	5/19	6/1	7/23	7/25	9/18	

② 生育調査

品種	7月28日調査		9月21日調査		
	茎長 (cm)	葉数 (枚)	茎長(cm)	莢数 (個/1株)	莢数 (個/1㎡)
十育 170 号	35.3	9.5	72.2	50.5	360.6
参考：作況平年値 (きたろまん)	33.3	9.0	58.9		369.0

③ 収量調査

品種	子実重 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	百粒重 (g)	屑粒率 (%)	倒伏 程度	品質
十育 170 号	363	317	15.4	12.7	微	2等

5. 考察

本年は出芽不良や欠株がみられ、初期生育はやや不良であったが、6～7月が高温少雨・干ばつ天候の中、その後の生育や登熟は概ね順調に推移した。粒大は7月中～下旬の高温干ばつ等により小粒傾向であったが、子実重は高く、品質も良好で「十育 170 号」は有望と判断された。ただ、単年度の成績のため、継続検討が必要と考えられる。